

主要野菜の生産力強化と労働生産性の向上

～ ヨクハタラキ、ヨクアソベ、メリハリLIFEの実現を!! ～

令和3～7年度

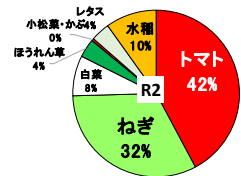
【 北斗市東前15戸 】 (地域第1係)

(課題番号1)

1 課題の背景

★重点地域の概要 「園芸(野菜)と水稲との複合経営が主体 売上の約9割は野菜」

- 農家戸数：15戸(水稲+野菜10戸、野菜専業5戸)
- 耕地面積：72.9ha(水稲47.3ha、施設野菜13.7ha(うちトマト4.7ha、ねぎ1.3ha、はくさい1.9ha)、露地野菜7.5ha(うちねぎ6.7ha))
一戸当経営面積：4.9ha/戸
- 平均年齢：54.3歳(40歳未満の若手農業者：4名)
- 平均家族労働力：2.7人



★農家の不安(聞き取り調査より)

その1 野菜の安定生産に将来不安

- 土は大丈夫か?
(養分蓄積、土壌病害etc)
- 栽培管理はこのままで大丈夫か?
(個々の技術、栽培方法、品種etc)



○主要野菜収量(R2)

- ・トマト平均収量9.5t/10a
(6.8~13.5t/10a)
- ・ねぎ平均収量3.5t/10a
(1.7~4.7t/10a)

現状の平均収量は、まずまず。でも、収量の個人差が大きい。

★土壌の養分蓄積に歯止め、栽培技術の高位平準化

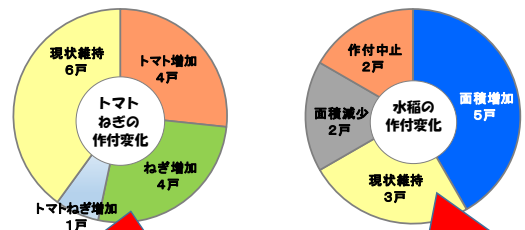
「栽培管理技術の向上で収量確保」

その2 労働力が足りない

- 高齢化 ○パート不足 ○規模拡大
- 管理が後手、トマトに手が回らない
(作付け面積が許容オーバー?)



○近年の主要品目作付の変化(H27→R2)



トマト・ねぎの面積増

一部農家に水稲集約

★手間のかかる品目や水稲が増え作業が重なり忙しい。休みも取りやすい体制が必要

「作付の適正化と省力化で経営を効率化」

2 活動内容

★5カ年で行うこと

	課題	取り組み	目標・効果
収量確保	①土壌改善	→ 単肥施肥(必要な分だけ)	→ 塩類蓄積防止
	②技術改善	→ 栽培情報をスマホで共有(高収量農家をお手本に)	→ トマト・ねぎの収量底上げ
	③栽培方法	→ トマト隔離ベッド栽培	→ さらなる収量UP&省力
経営効率	④栽培管理	→ シミュレーション(営農ナビ)	→ 作付面積の適正化
	⑤水稲省力	→ 直播・高密度播種栽培導入	→ 4~5月労働軽減・水田面積拡大に対応
	⑥労働補完	→ 農福連携の活用	→ 一部作業の軽減



★令和3年度の取り組み

- (1) 主要野菜の生産性向上
 - ア 塩類集積対策のための単肥施肥や減肥の実施(現状0戸→目標1戸)
 - イ 栽培情報の共有と比較による技術改善(現状0戸→目標2戸)
- (2) 経営効率化の推進
 - ア 労働ピーク分散のための経営シミュレーション実施(現状0戸→目標7戸)
 - イ 水稲直播、高密度播種移植栽培の導入(現状3戸→目標5戸)
 - ウ 労働補完体制の検討(農福連携の取り組みを前倒しで検討)

3 活動成果

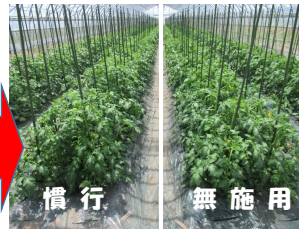
< 栽培管理技術の向上で収量確保 >

★肥料は必要な分だけ ~塩類集積対策のための単肥施肥や減肥の実施~

○2戸が単肥・減肥を実践

表 春はくさい後のトマト生育比較 (B氏)

基肥窒素	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎径 (mm)	葉長 (cm)	開花 段数
無施用区	177	21	8	31	6
慣行区	177	21	9	32	6



はくさい後、無肥料でも結構大丈夫だな。

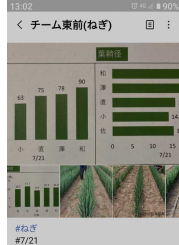


※栽培後の土壌診断→土壌養分変化を確認予定

★お隣さんと比べてみましょう ~栽培情報の共有と比較による技術改善~

○ねぎ・トマト生育比較「生育情報はスマホで共有、現地研修会でも情報交換！」

スマホ画面



現地研修会 (7/21)



うちのねぎ、他に比べて短い。今年は雨降らないから、俺もかん水してみるか



かん水実施



雨降らないからかん水してるよ

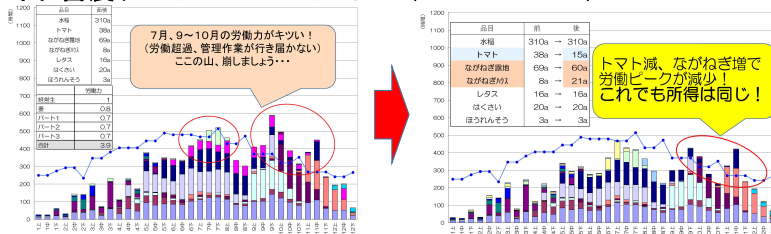
※月3回の調査はJAも参加し情報共有、農業者同士の技術情報共有を行う仕組みに

< 作付の適正化と省力化で経営を効率化 >

★管理が後手、作付け考えてみよう ~労働ピーク分散のための経営シミュレーション~

○シミュレーションで労働分散

図 営農ナビシミュレーション (Before after)



7月、9~10月の労働力がキツイ！
(労働超過、管理作業が行き届かない)
この山、削きましょう...

トマト減、ながねぎ増で労働ピークが減少！
これでも所得は同じ！

ねぎ収穫が始まるとトマトまで手が回らず、管理が後手になる。来年、トマトを少し減らしてみる。



★春野菜が忙しい、水稲面積が増えた、そんな方に！ ~直播栽培、高密度播種移植栽培導入~

○新規で2戸取り組む(直播1戸、高密度播種1戸)

表 新規取組農家の水稲省力状況

新規農業者	取り組み内容 (面積)	4~5月労働時間	
		削減時間	削減率
k(直播)	中苗3.0ha → 直播3.0ha	56hr	約50%
H(密播中苗)	中苗4.0ha → 中苗2.0ha 密中2.0ha	24hr	約7%

作業が楽、春野菜収穫の人手確保できた。今年も収量もバッチリ(価格安いけど)



= 新規直播導入農家 =

4 今後に向けて

(1) 主要野菜の生産性向上

土壌診断に基づく単肥施肥や減肥を啓蒙。農業者同士の栽培情報共有による技術改善。

(2) 経営効率化の推進

経営シミュレーションは冬期間に農業者と作付の検討。農福連携の取り組み拡大。